

back

能楽師の大島衣恵さん（手前左）の指導で能の動きを学ぶ子どもたち＝福山市松浜町2丁目のリーデンローズで



主役は子ども 元氣な子ども

能に親しむ 伝統に挑む 福山

福山市松浜町2丁目のリーデンローズ（ふくやま芸術文化ホール）でも「こどもの日」にちなみ、能に親しむ集いが催された。

地元の喜多流大島能楽堂の「おおしま能学習会」の主催で、備後各地や広島市などから36人の子らが参加。能楽師の大島衣恵さんと、妹の文恵さんの解説で、中国の伝説を題材にした「狸ねこ々」を紙芝居で見た後、謡や鼓、太鼓、笛の演奏を楽しんだ。太鼓に合わせてひさをたたき、能のリズムを体感したほか、扇の持ち方や謡の発声、すり足も学んだ。

初めて能面をつけた広島市安芸区の小学6年生川岡倫子さん（11）は「思った以上に重く、狭い範囲しか見えなかった。能への興味がわいてきました」と話していた。

（松尾俊二）